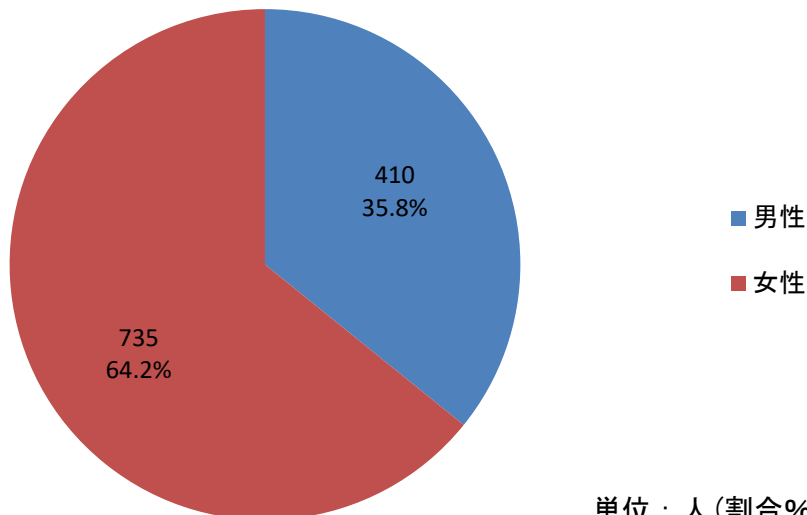


第7回eモニターアンケート「障害者差別解消について」

実施期間
回答数

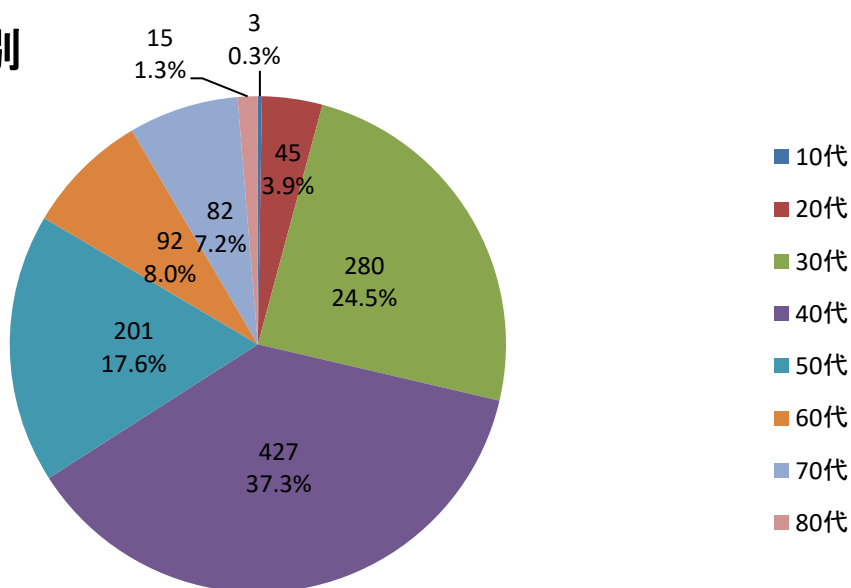
令和元年10月1日 ~ 令和元年10月8日
1145 人

性別



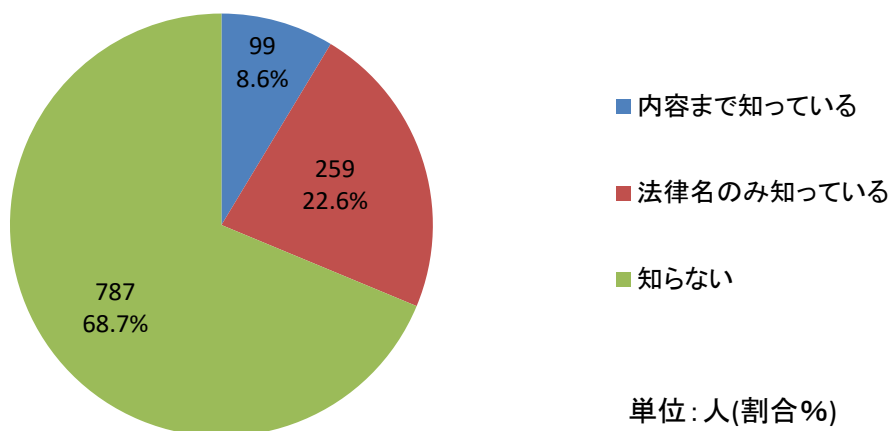
単位：人(割合%)

世代別

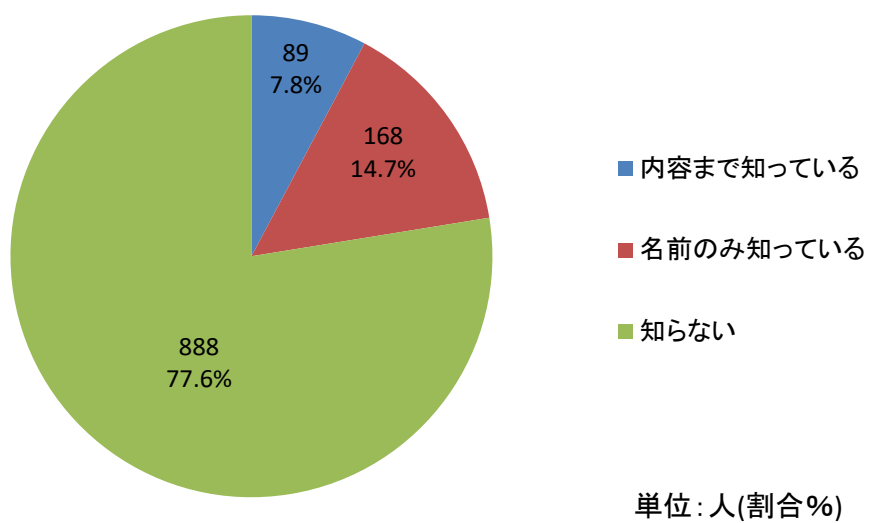


単位：人(割合%)

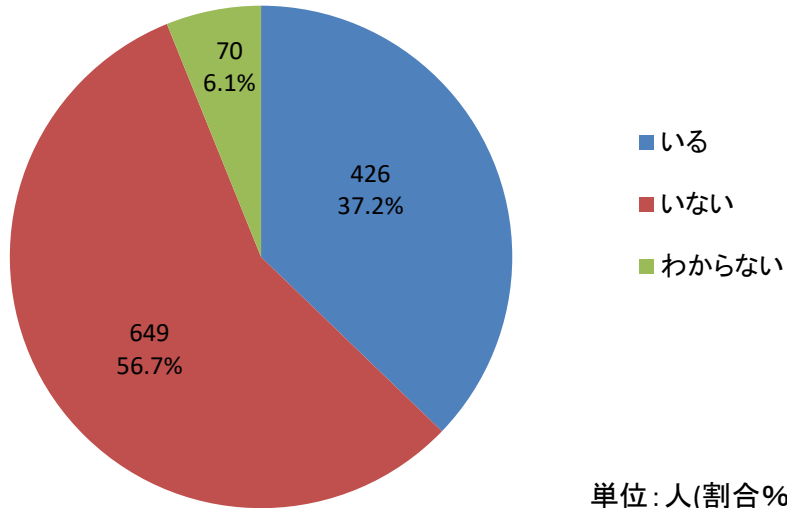
問1:障害者差別解消法を知っているか



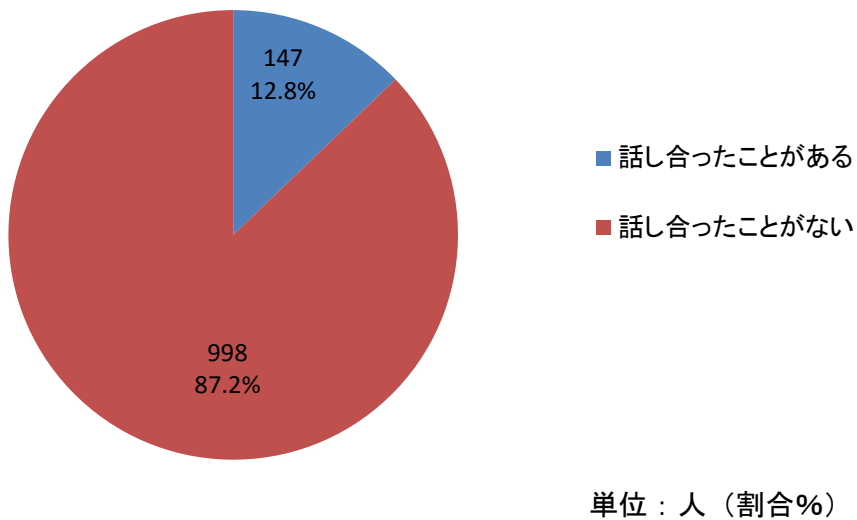
問2:「合理的配慮」を知っているか



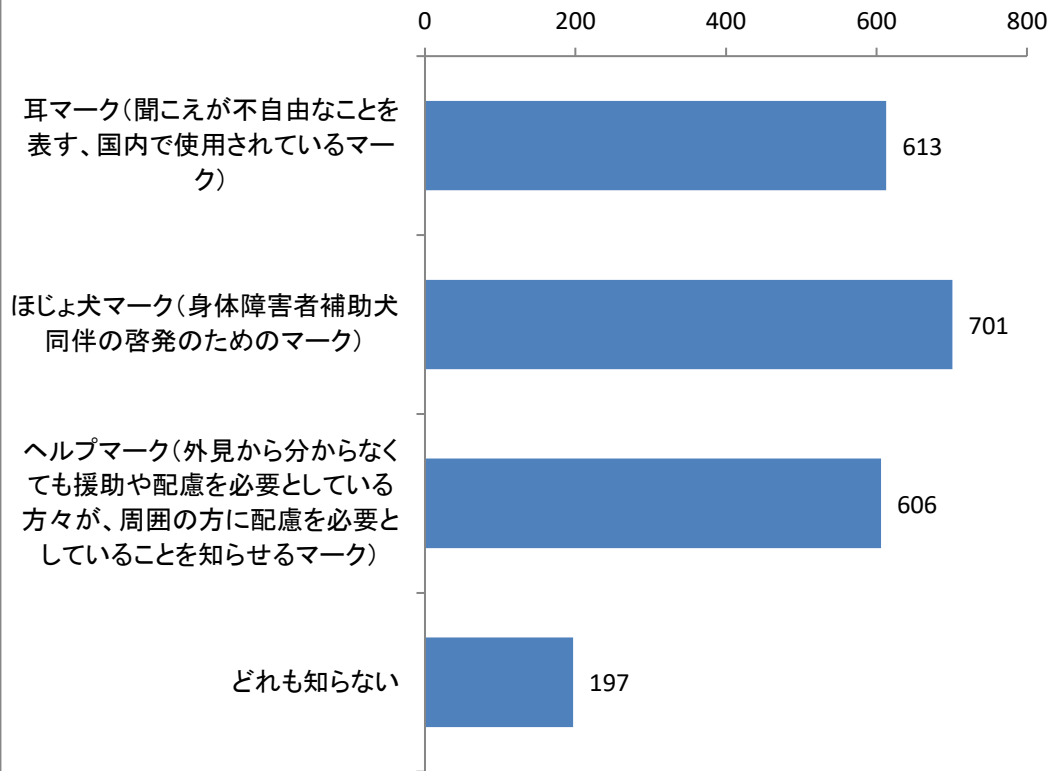
問3: 身近に障害を持っている人がいるか



問4: 障害者の災害時のサポートについて、障害者本人や家族、地域の人と話し合ったことがあるか

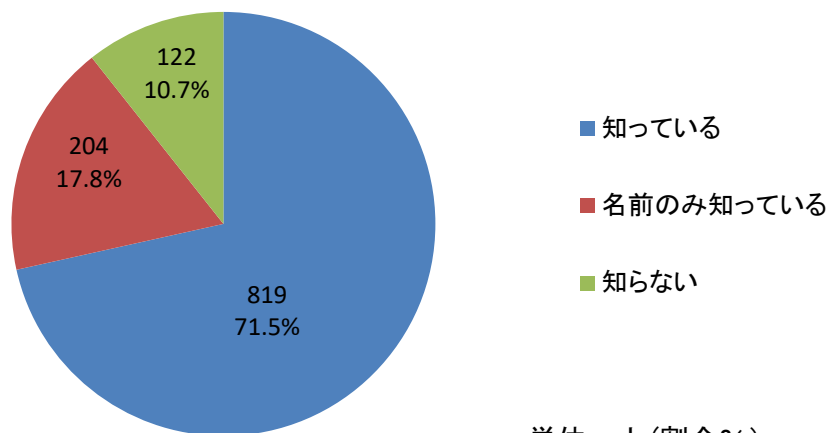


問5:知っている障害者マーク(複数回答)



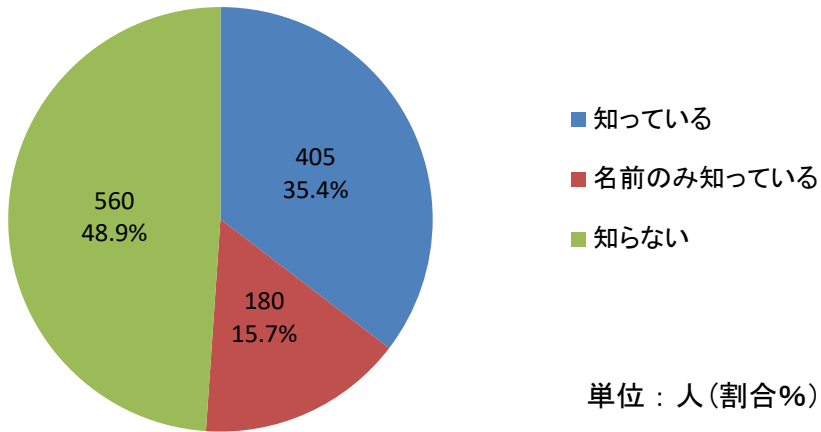
単位：人

問6:手話通訳を知っているか

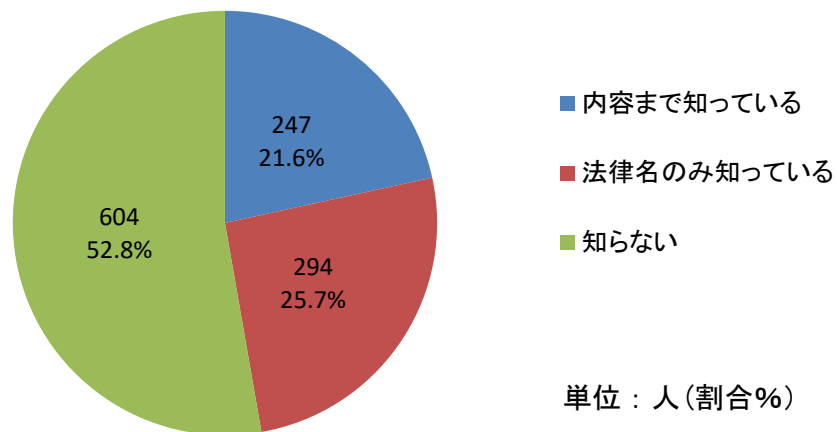


単位：人(割合%)

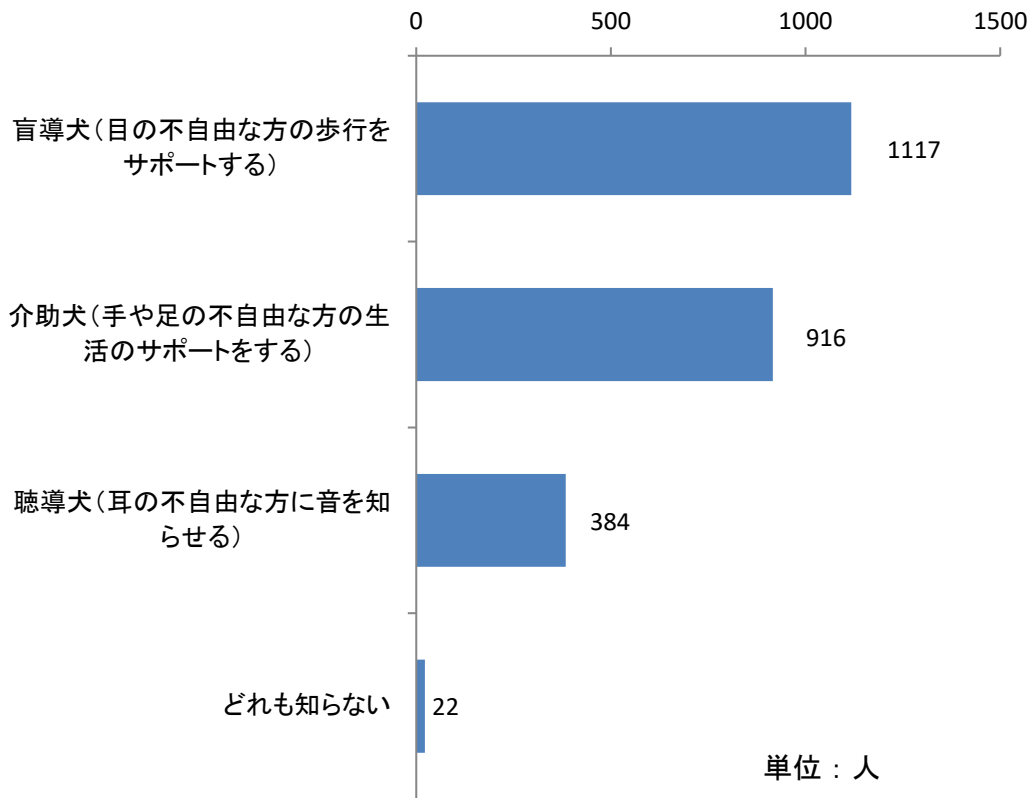
問7: 要約筆記を知っているか



問8: 身体障害者補助犬法を知っているか



問9: 身体障害者補助犬のうち知っているもの
(複数回答)



問10 (抜粋)

小中学校も車椅子の受け入れ体制ができておらず、入学する事になったら改修するなどユニバーサルな体制には程遠いと感じています。昔からある建物を変えていくのは大変だと思いますがユニバーサルデザインがもっと身近になると良いと思います。また身近に障害者がいないのでどのように接して良いかわからないです。そういう情報に簡単に触れる機会があると良いなと思います。

まずは、障がいのある方々と日常的に触れ合う機会が必要であると思います。安城の街は、段差が多く、まだまだ移動がしづらい。心のバリアフリーとハード面のバリアフリーをより一層進めていただきたい。

近所の公民館をよく利用するが、指摘するまで点字ブロックギリギリにコーンが置かれていた。もしかしら、この公民館には点字ブロックを必要とする人が利用することが希かもしれないが一。それでも点字ブロックを必要とする人に配慮がされていないというのは、いかがなものか？実際に点字ブロックを必要とする人にも意見を訊いて、利用しやすい公民館へしていくべきだと思うし、他の公共施設にも同じような問題がないか、横展開をしていってほしい。

障害のある人は、まず外出するのが大変。バス停まで、駅までいくところから大変なので。タクシー費用の補助が一番だと思いますが、その申請をするのも大変なのでは。そういうことを気軽に身軽に助けてくれる行政であって欲しい

このアンケートで、障害者のマークや法律のことで知らない事があるのを改めて知りました。これを機会に、ホームページ等で知ろうと思います。ありがとうございました。

市の広報紙は毎回丁寧に読んでいたつもりでしたが、法律等を改めて尋ねられると分からず、HPでわか勉強をする始末で情けなく感じました。毎年秋に開催される市の福祉まつりは「知る」という意味でとても重要なイベントだと思います。バザー品の出品や当日参加などほんの些細な形ですが、可能な範囲で参加しています。知らないということが差別につながるのではと考え、今後も福祉まつり等の啓発活動を続けていきたいです。

無頓着な善意に起因する、不要で余計な、おせっかいが無いかを気にしてほしい。障がい者のためということで収集した個人情報を役立てると称して、市などの係りが、ここにも、ここにもと広範囲に流布しないで欲しい。一旦流出した情報は絶対に回収できないし、情報は独り歩きをするということを特に気にして、必要なときに必要なところだけ迅速に伝達する必要があると思う。

介助犬や、手話、点字など、存在は知っているが、それが具体的にどのようなものかは知らないし、ましてや法律が制定されているなんて全く知らなかった。小中学校で、ある程度の教育をするべきであろうと思われる。また、直接ふれあえる啓蒙活動もやってはいるのだろうが、実際自分の体験としてはないので、コマーシャルをもっとやれば良いと思う。是非参加してみたい。

ご近所の目の不自由な方が、ヘルプマークを市役所でもらってきたと首から下げているのを見て知りました。単純ながらも分かりやすいものかと感心しました。周知されなければ手を貸せないで、みんなが知るために工夫するべきだと思いました。

以前、桜井の特別支援学校の近くに住んでいましたが、障害者とどのように関わればいいのか、わからなかった。桜井以外でも、駅やその他で見かけて、声をあげてる人がいても、適切な対応が出来ない為に見てみぬふり。大きい特別支援学校があるのだから、どう関わればいいのか、広報、集まり等あってもいいのではと思います

良かれと思って言う、やる事が実はプレッシャーだったり、嫌な気分させることがあるらしいが、障害者本人や家族にどう接したらいいのか、もっと発信して欲しい。

障害者差別の解消を取り組まなければならない問題であることは以前より自覚はしているが、自分はどうしたらいいのかわからないでいる。まず理解をすることが大事であると思うが自分で積極的になるとなかなか難しい。

知らないことが多いと分かりました。

障害があり、ヘルプマークを付けていますが、まだまだ周知不足で、何それ？くらいにしか思われていません。バスや電車に乗っていても席を譲っていただいたり、声をかけていただいたりしたことがありません。みなさんへの周知と理解がもっと広がってほしいと思います。

災害の時のことを考えることが大切ではと思いました。

私は、ボランティアで視覚障がい者の方のガイドヘルプをしています。こういう活動をしていることを周りの人に伝えたり、視覚障がい者の方の生活ぶりなどを日常的に話すことで、少しでも健常者の方との壁を取り除くことができるのかと思っています。

障がい者の差別というのは、身近な人にそういう方がいる人、障がい者と関わったことのある人ほど差別的でなくなるのではないかと考えています。どうしても最初は自分の思っている“普通”と違う人を態度に出すか出さないかは別として、違和感を抱いてしまうと思います。障がい者差別をなくすための教育や、呼びかけはとても大事だけれども、それプラス、健常者がどのように対応すれば良いのかも提示することが非常に重要だと考えています。でないとなんかしてあげたいのに対応が分からずあたふたしてしまうと思います。

学ぶ機会がないだけの人もあると思うので、障害者だけのくりにせず、賑やかな子ども、体調のすぐれない妊婦、車椅子が必要な老人、補助犬が必要な人、など、どんな年代や人にとって住みやすい街という観点から、意見を募集したら良いと思う。

以前住んでいた市では障害のある方と交流する機会があり、困っていることや意見を一般市民の私も直接聞くことができました。差別の解消のためには、様々な障害を知ることが重要だと考えます。例えば、市が主催する講演会で手話通訳や要約筆記をつける（事前申込みがあればつけるのではなく、どの講演でもつける）ようにすれば、今まで知ることが無かった人たちにも、知ってもらえることができると思います。

障害者本人は生まれた時からなら障害を障害だと思っていないのかな…周りが勝手に障害者って決めてる感じがするから、障害者って言葉が好きではありません。

「障害者」という代名詞が壁を作っている気がする

特別支援学校に通う子どもたちの中には、障害の種類などの理由で、やむなく在住の市外の学校に通わなくてはならない子どもも多い。全てのサービスが、市をまたいで受けれるようにすべき。

障害者差別の解消のためには、バリアフリーのように障害者が自力で社会参加できる仕組みも大事ですが、完全なバリアフリーは難しく何らかの支援が必要な場面がある以上、障害者から支援を求める声をあげやすくする、例えばヘルプカードのような取組が大切なのではないかと思います。

幼少期の頃から障害者の話をしたり勉強する機会が増えるといいなと思う。親でも説明することが難しいので親子一緒に参加できるような場面があると伝えやすいのかなあと思う。

地域で、障害者を支援出来る体制づくりが必要だと思います。

学校教育や企業従業員教育が必要だと思う。

発達障害、適応障害等の人は外見では見極めることが難しいので、対応に苦慮することがあるのではないかな？

身近にいないのでなかなか知る機会がないです。最近は精神的な障害が問題になるケースが多いので、もっと知れるような情報があると良いかもしれません。

来庁した時に、市役所職員でもこの法律が周知されているのか疑問に感じる事が多くあります。アンケート調査のみで終わらないようにしてほしい。

市の施設や公共交通機関に呼び掛けて、障害者についてのピクトグラム等を目立つように表示したり、パンフレット等を設置することで、少しずつ一般の人にも理解を深めてもらうようにする。

市役所職員への全庁的な周知及び障害者支援のための職員の増員並びに民間事業者及び身体障害者世帯への合理的配慮のための金銭的な支援を求めます。

障害のある方々にとって住みよい街になるよう願っている。とりあえず、側溝のふたは設置した方がよいと思います。

なかなか厳しい面もあると思うので、気長に推進を継続してほしい。効果が得られないからと言って、市の予算を削ることはやめてほしい。

主要道路の交差点歩行者用信号機に、音声で報せる装置を設置すべき。歩道を広くし、点字ブロックを設置する。補助犬について周知するために、小学校、中学校、高校の授業やレクリエーションで、アピールする機会をつくるべき。

ぜひ市が積極的に啓蒙活動してほしい

周りの少しのサポートで十分お仕事できる方もたくさん見えます。受け入れる側も統一した考えがあれば社会に溶け込みやすい状態になれるかなと思います。

会社として雇用枠の範囲で数名働いているので、会社で接しながらどのように対応したら良いかを学んでいます。まずは慣れて普通に接することと、相手を理解してわかってあげることが大切だと思います。

精神障害は外見からわかりにくいので、職場では迷惑な存在として扱われるので辛い。

見た目に分かり難い障害の場合、合理的配慮を職場の人がどれくらい理解してくれるのだろうか。同じ給料をもらっているのだから、出来る出来ない関係なくやらないとおかしいと言われたことがある。やりたくないだけ、ズルい、ワガママ、みんな嫌な仕事があるのに特別扱いはおかしい、などと思われながら働くのは辛い。カミングアウトすれば一定の理解はされるかも知れないが、カミングアウトによる偏見を考えると怖い。まず、障害への正しい理解を浸透させることが行われなければならない。

障害者という事を明確にするのが良いのかしない方が良いのか、どうした方が差別を解消できるのか難しい事だと思う、年代的に意識の差が大きいのではないかと考える、日常的に接したりしてきたならば障害者について知ったり理解したりできるだろうから小さい時から障害者と触れ合う教育環境があれば差別を解消していけるのではないだろうか。

バリアフリーを充実して暮らしやすい街作りが大事だと思います。障がい者とは接点がないので付き合い方がわかりません。子どもの頃から障がい者は別の学校で別の世界にいました。今は少しずつ関わり合いが出来ているようですが、子どもの頃から関わり合いが持てるといいです。まだまだ大人の偏見があります、私は障がい児を産んだら親から責められたと思います。障がい者を個性と位置付けて自立出来る社会が必要です。重度の障がい者の賃金が低すぎて自立出来ません。真面目に働けば生活できるようになるといいです。

市民が共助の気持ちで、当たり前のこととを感じる社会の構築を望みます。

法律を作らなければいけないほど、社会が配慮にかけてしまってるという悲しい現状。お互いに壁を作らず共存できたらいいなと思います。

共存共栄を望みます。弱者を守る、ということは一般社会に放り込むこととは違います。

健常者の中には、障害者問題について他人事と思う人がいるが、誰でも、いつでも、障害者になるかもかもしれないので自分事として考える必要があると思います。

明らかな障害の方でも声かけは少しためらってしまう。法律や制度をかみ砕いて説明してくれる機会が欲しい。できれば小さい子から年寄りまで混ぜて聞けたらいいと思います。

発達障害児の親です。周りの方々に求める事は『理解』です。助ける事、支える事はみんながしなくても出来る方がしてくだされれば良いと思っています（して下さる方々にはいつも感謝しています）。ただ、彼らの特性によって生きづらさを感じ苦勞をしている事…わがままや迷惑をかけようとしているわけではない、ということを理解してあたたかく見守っていただければ有難いです。彼らの特性を知る機会を増やして欲しいです。企業や学校でも積極的に機会を作って欲しいと思います。

家族に障害者がいるが、その友人などを見ていると、障害者だからやってもらって当たり前のような考えを持っている人が多くてびっくりした。お互いに歩み寄る気持ちが大事だと思う。

差別を解消するのは悪いことではないが…こういう法律があるんだから、障害のない人と全く同じようにしろと思う人もいる。障害者自身も差別を無くしてほしい時と、配慮してほしい時が混同してるし、個人個人で障害が違うから法律に沿ってのサポートが難しそう。

障がい者が求めているものと各機関、商業施設などが提供、対応できるものが追いつかないのはわかりますが、現実的に昔よりも障がい者が多くなった気がするので、多岐に渡る支援をし続けて欲しいです。時に、冷たい対応やめんどくさいと感じられる態度も感じられます。かと言って、稀に障がい者だからと横柄な態度をとる方もいます。お互いに生活しやすい環境を目指していきたいものです。

まずは障害のある方が、社会生活を制限せずに(現在以上に)出られるように環境を整え、日々の暮らしの中で健常者と障害者がいる事が当たり前の風景になれば解消できるのでは 高齢者も含まれると感じます。